

成増塾中山講座

精読テキスト B

～難関私大、国立二次の英文読解を目指して～



文型の把握

C.1[SV+修飾語+O]

Scientific achievements of which we can be proud, now place in the hands of *our* generation, the power to destroy the whole of mankind, perhaps all life upon the earth, and that human culture which has been so painstakingly accomplished during many thousands of years. (お茶の水女子大)

C.2[S + 修飾語 + V]

Have you ever noticed that practically everything you read justifies and reinforces your own opinions and views on life? We form opinions and then spend our entire lifetimes validating what we believe to be true. This rigidity is sad, because there is so much we can learn from points of view that are different from our own. It's also sad because the stubbornness it takes to keep our heart and mind closed to everything other than our own point of view creates a great deal of inner stress. A closed mind is always fighting to keep everything else at arm's length. (奈良女子大'17)

C.3[SVOO の受動態]

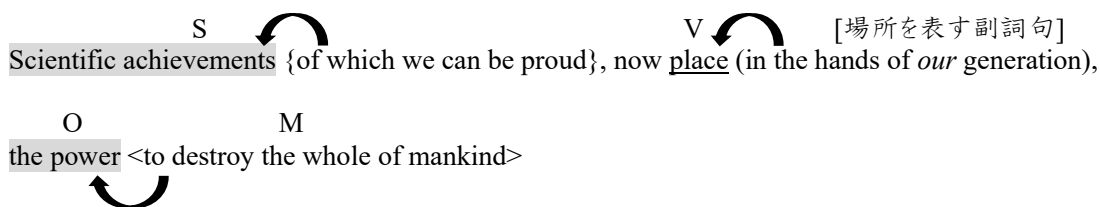
In spite of being a scientist, I strongly believe an education that fails to place a heavy emphasis on the humanities is a missed opportunity. Without a base in humanities, both the students and the democratic society these students must enter as informed citizens are denied a full view of the heritage and critical habits of mind that make civilization worth the effort. (名古屋大'17)

【解答】文型の把握

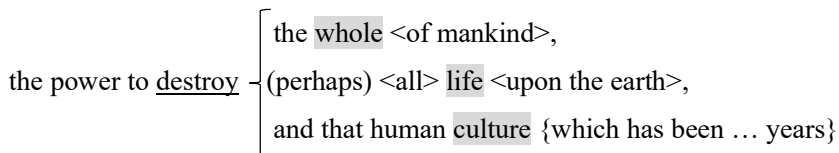
C.1

★ of which we can be proud は関係詞節です。元の語順に戻すと we can be proud of which (which=scientific achievements) となる。achievement は「努力して成功したこと」。生徒の achievement なら「成績」、会社の achievement なら「業績」。be proud of~で「～を誇りに思う」。

★ 主節の動詞は place です。place O [場所を表す副詞句]で「Oを～に置く」。意味や用法は put と同じ。目的語は the power...です。構造を整理すると以下のようになります。



☆ the power..., perhaps all life upon the earth, and that human culture which ...の部分は A, B, and C の構造です。3つの名詞句が並列しています。この並列した名詞句は destroy の目的語。



that human culture の that は代名詞。「その人間の文化」。

解答例 我々が誇ることのできる科学的な功績は今や、全人類、おそらく地球上の全生命、そして何千年もの間に苦勞して築かれてきたその人間の文化を破壊する力を我々の世代の手に与えている。

C.2

☆ 下線部までのあらすじ:人は一度自分の意見を確認すると、残りの人生をその意見の裏付けに費やしてしまう。自分とは異なる視点から学べることは多いので、この頑固さは悲しいことである。

※日々たくさんの情報に接しているつもりでも、人は無意識に自分の意見に合うものだけを選び分けて吸収している、ということ。自分の好きなコンテンツだけを表示させる SNS の登場でこの状況は加速しています。この状況を指して filter bubble, echo chamber(反響室)と言ったりもします。

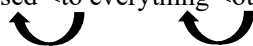
☆ It's also sad の It は代名詞です。指しているものは前文の this rigidity「この頑固さ」。the stubbornness と it takes...の間には関係代名詞 which が省略されています。S take O で「SはOを必要とする」。it takes to keep...の it は形式主語、to keep...は真主語です。takes の後ろにあるはずの目的語が、省略された which です。

先行詞 O 形 S V 真 S
the stubbornness {(which) it takes to keep our heart and mind closed}

関係詞節を通常の語順に直すと it takes which to keep our heart and mind closed となります。つまり、to keep...することは、which(=stubbornness)を必要とする、ということ。

★ 真主語の中身では keep O C「OをCに保つ」の構文が使われています。Oは our heart and mind、Cは closed。to everything...view は closed を、other than our own point of view は everything を修飾しています。other than ~で「~以外」。

closed <to everything <other than our own point of view>>



ここまでをまとめると「我々自身の視点以外のすべてに対して私たちの心と頭を閉じたままにするのに必要な頑固さ」となります。そしてこれが文全体の主語です。(長い)

★ 文全体の構造は以下の通り。

stubbornness {it takes to keep ... point of view} creates <a great deal of> inner stress.
S V O

inner stress は精神的ストレス。

★ 2文目の構造は以下の通りです。

A <closed> mind is (always) fighting (to keep everything else at arm's length)
S V V' O' [場所を表す副詞句]
「~するために」の副詞節

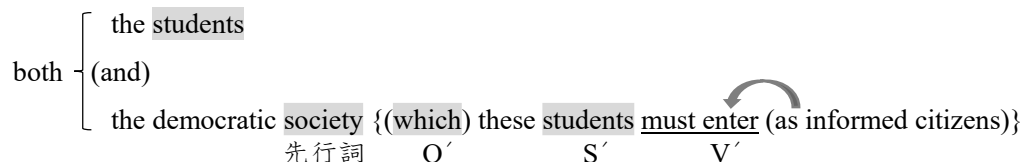
at arm's length は「一定の距離に」。これは自分とほかの物の間の距離を腕の長さくらいに保つ、ということ。遠いわけではないが、かといって手元ほどに近いわけでもない。be always Ving は書き手の非難を表します。「～してばかりだ」。

解答例 我々の心と頭を自分の視点以外の全てから閉じたままにするのに必要な頑固さは、多くの精神的ストレスを引き起こすという理由で、それは同様に悲しい。閉じられた心は、ほかの全てのものとの距離を一定に保つために常に戦ってばかりいる。

C.3

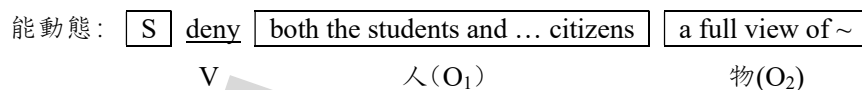
☆ 下線部の直前の、「人文学に重点を置かない教育はもったないと強く思う」という内容が主張、下線部はその理由という構成です。

★ Without a base in humanities の without は「もし〜が無ければ」。前半の文構造は以下の通りです。

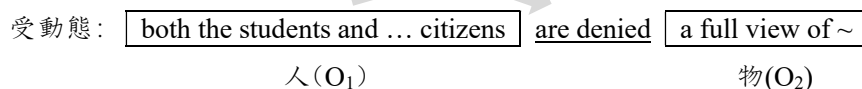


inform 人 of 物で「人に物を知らせる」。人 is informed of 物はその受動態です。「人は物を知らされている」。すなわち、informed は「(物を知らされている→)知識のある」。

★ are denied a full view of ...は受動態です。元の形を考えます。deny は「否定する」という訳語がまず浮かびますが、これは SVO の文型です。すると a full view of ... という名詞句の説明が付きません。ここから、今回は deny が SVOO の文型で使われていると判断します。「人に物を与えない」という意味です。

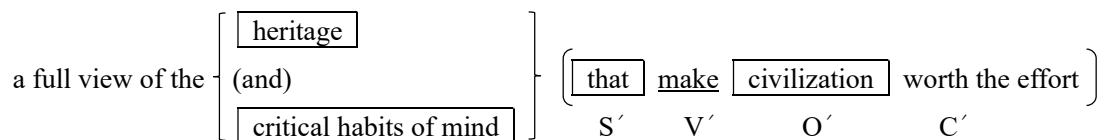


「Sは学生と...の両方に、a full view~を与えない」



「学生と...の両方は、a full view~を与えられない」

★ 後半の文構造は以下の通り。



a full view は「全体像」、heritage の直訳は「遺産」。ここでは古代ギリシャから続く民主主義の伝統のうち、現代まで受け継がれてきたものを指しています。選挙の制度、言論の自由、三権分立など。critical habits of mind の直訳は「心の批判的習慣」。critical は critical thinking「批判的思考」のこと。日本語では「批判」は「非難」と同義で使われる場合もありますが、critical thinking の「批判」は「分析・吟味する」という意味。

解答は「心の批判的習慣」で問題ないと思いますが、自分の理解に自信がある人は意識すると採点官に対してアピールになるでしょう。
「物事を批判的に見る心の習慣」など。

解答例 人文学の基礎が無いと、学生と、これらの学生が知識ある市民として入っていかねばならない民主社会の両方は、文明を努力に値するものにしていく遺産と心の批判的習慣の全体像を与えられない。

雑記: 理数系偏重の世の中にあっても人文学の大切さを説くという、なかなかお目にかかれない熱い文章ですね!